

第124回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和8年9月28日（月） 9：00－11：00

2. 場所：中央合同庁舎4号館 共用第3特別会議室

3. 出席者：

（1）委員

澤田委員長、常田委員長代理、石井委員、栗原委員、白坂委員、松尾委員、吉田委員

（2）内閣府

内閣府特命担当大臣（宇宙政策）：古川大臣

内閣府宇宙開発戦略推進事務局：龍崎事務局長、鎌田審議官、河原参事官

（3）オブザーバー

宇野善昌内閣総理大臣補佐官

宇宙航空研究開発機構（JAXA）：山川理事長

（4）関係省庁等

内閣衛星情報センター：室伏管理部長

警察庁長官官房：飯濱技術総括審議官

総務省国際戦略局：吉田官房審議官（国際戦略局担当）

外務省：高羽参事官（宇宙政策担当大使）

文部科学省研究開発局：西條局長

農林水産省技術会議事務局：羽子田研究総務官

経済産業省製造産業局：畑田審議官

国土交通省大臣官房：久保田技術総括審議官

環境省地球環境局：飯田局長

防衛省大臣官房：中野サイバーセキュリティ・情報化審議官

宇宙航空研究開発機構（JAXA）：石田宇宙戦略基金プログラムディレクター

4. 議事要旨：

（1）令和9年度宇宙関係予算の各省の概算要求状況について

宇宙事務局より資料1-1～1-11に基づき説明を実施。

委員からは以下のような意見があった。

- 現状、宇宙関係予算のとりまとめが各府省庁別となっている。現行の「宇宙基本計画」では4つの柱があり、各省庁の取組について、4つの柱ベースでどのように位置づけられるのかという点（ひもづけ）を宇宙事務局にて整理いただきたい。今後、省庁間横断での取組がさらに重要となる中、関係省庁間で協力もしやすくなる。
- 宇宙戦略基金の要求額が減っていく中で、1兆円超の要求は有難い。経験則として、10年前と比べて商用衛星製造に数倍のコスト増加が生じている中、その状況理解も必要。打上げ費用等のコストダウンとともに、衛星製造費等のコストアップの宇宙

分野であり、やるべきことをきちんとやるための予算を確保することが重要。

- ロケット・射場でのまとめ調達について、現状5年先までという取組。技術開発を含め、10年などさらに長い目線での取組についても肝要。経済産業省・文部科学省においてもロケット・射場の取組があり、全体とりまとめの体制に期待。
- 成長戦略での合計14兆円の官民投資額のスタートラインに立ったものと認識しており、その点でもモニタリングが重要。
- 端境期的な部分もあると認識。次期宇宙基本計画を見据え、検討・仕込んでいく時期である。

(2) 宇宙戦略基金の進捗状況について

JAXA 石田宇宙戦略基金プログラムディレクターより資料2に基づき説明を実施。
委員からは以下のような意見があった。

- ステージゲートの際に、当初計画通り進んでいたとしても、国内外を含む関連動向に応じた評価が重要。
- また、JAXA の関与・連携も重要。JAXA の約150人態勢でのマネジメントは、事業者とJAXA の両方にメリットがあると認識。JAXA が支援しやすくなるようなスキームの必要性も考えられる。

(3) 宇宙基本計画改定の論点整理に向けたポイントについて

宇宙事務局より資料3-1～3-2に基づき説明を実施。
委員からは以下のような意見があった。

- 宇宙安全保障の確保に関し、防衛省の機動対応宇宙システムのような取組については、国際的な規範や議論との整合が必要であると認識。
- 基本理念において、宇宙基本法に記載のある「宇宙の平和的利用」への言及が重要。FAA との協力覚書で日米両国の法令や基準の調和が位置付けられているが、規範・標準に関する我が国の米国との関係、及び産業界への影響を考える必要がある。
- 機能保証（ミッション・アシュアランス）の強化は防衛省に限ったものではない

く、宇宙安全保障の中核概念であり、重要な課題であるものと認識。

- 外需・民需獲得がマーケットを広げるため、「社会実装」への言及は良い。
ニーズブルのみならず、シーズを生み出し続けることも同様に重要。現状は宇宙戦略基金で支援しているが、JAXA による研究者・技術者を含めての支援に多大なる価値があり、国研と事業者・大学等の前例なき一体的取組と言え、継続していくことが重要。
- 月面活動は、民間投資が重要。ISS では官から民への移行に苦労した前例があり、月では民間の参入のあり方について最初から議論していくことが肝要。
- 産業化・社会実装が重要。アンカーテナンシーについて、官需が終わった後に息切れしてはまずいので、民間市場開拓にも目を向けながらの取組が重要。そのための政府からの先行的な投資に目を向けられているが、取組の具体の検討が重要。
- 射場について、国・自治体がある程度整備・管理することが重要。「基幹ロケット」は、国が多大な投資をしているが、基幹ロケットが民間企業のイノベーションを促進するような環境醸成が重要。高頻度な打上げを実現できるよう、民間企業が投資するような仕組みが必要。
- 宇宙分野では、安全保障と民間企業や JAXA との間の連携は進んできたが、アカデミアとの連携はまだ少ない。デュアルユース化が進む宇宙分野では、先進的に安全保障とアカデミアの連携に取り組んでいくべき。地球観測衛星は、小型衛星が注目されがちだが PMM（降水レーダ衛星）や GOSAT（温室効果ガス観測技術衛星）等の大型衛星含め、ビジョンを持ち続けることが重要。月への巨額投資、なぜ日本が月に行くのかという点、国民への説得性を改めて整理することが重要。
- 今後、本委員会での指摘をもって、部会・小委員会でも議論を継続していくこととしたい。

以上